

骨折リエゾンサービスの紹介 -FLS (Fracture Liaison Service)-



整形外科 主任部長 宮本 礼人

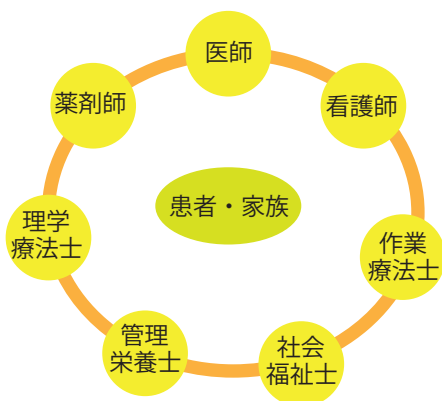
はじめに

当院で2022年5月より骨粗鬆症治療、骨粗鬆症による脆弱性骨折予防のために骨粗鬆症リエゾンサービスチーム(OLS)、骨折リエゾンサービス(FLS)を導入しました。FLS(Fracture Liaison Service):骨折リエゾンサービスの略称です。

一度骨粗鬆症性脆弱性骨折を生じた方は、二次性骨折(新しい別の骨折)をしてしまう危険性が高くなります。FLSとは二次性骨折を生じないために骨折の治療と同時に骨折の原因である骨粗鬆症の治療を行うことです。当院では大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折で入院してきた患者さんに対し、FLSチームが介入し骨粗鬆症の評価・治療を多職種で行っております。

チーム構成

医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、社会福祉士で構成されています。



骨粗鬆症とは

骨強度の低下を特徴とし、骨折のリスクが増大しやすくなる骨格疾患と定義されます。骨強度は骨密度と骨質の2つの要素からなります。

年齢と共に骨密度は低下し、特に女性の方は閉経後の骨密度低下が大きく、転倒等により大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨近位部骨折等の脆弱性骨折が生じやすくなります。特に大腿骨近位部骨折が生じると手術的治療が必要となることが多く、生命予後の低下・ADL(日常生活動作)の低下をきたすことがわかっており、骨粗鬆症の治療が重要であることが示唆されております。

また、一度脆弱性骨折を生じると、その後他の部位の骨折(二次性骨折)が生じやすいこともわかっております。そのため、大腿骨近位部骨折で入院してきた患者さんに対し、骨折の治療はもちろん、骨粗鬆症の状態を評価し、骨粗鬆症治療をFLSのチームの多職種でアプローチを行うことで二次性骨折予防につながると考えられています。この取り組みは、現在世界的に広がってきております。

骨粗鬆症は骨折等を生じなければ症状として表れにくい、骨粗鬆症の検査や治療を行う方が少なく、開始しても長期継続が困難とされています。骨粗鬆症の重要性を医療従事者や患者さんやその家族へ啓蒙することが大事と考えます。

活動内容

脆弱性骨折を生じた患者さんや高齢の患者さんの骨粗鬆症の有無や病態の診断をして治療が必要か判断し、骨粗鬆症と診断された患者さんに対し、薬物治療の導入を行います。また、患者さんや家族に服薬指導、栄養指導、リハビリによる転倒予防等を行います。

☆医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、社会福祉士等の多職種で骨粗鬆症診断、治療、脆弱性骨折予防に取り組みます。

☆当院退院後は、リハビリ病院やかかりつけ医と連携し、骨粗鬆症治療の継続を推進します。

☆歯科とも連携し、口腔ケアを行い、骨粗鬆症治療に伴う合併症等を予防します。

骨粗鬆症治療は長期的な治療継続が必須と考えております。当院のみでの治療は限界があり、愛媛県全域の病院との連携が重要となります。愛媛県全体で連携を取り、協力しながら骨粗鬆症治療を行い、脆弱性骨折を予防し、患者さんのADLを向上させることが大事だと思っております。連携施設の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

患者さんにおきましては、日常生活の中で気になる症状がございましたらお気軽にご相談ください。

＼お気軽にご相談ください／



FLS チーム (前列中央が筆者)